

2016年度商学部専門科目 「経営史」

第13回中国の生産システムと今後の日本のそのの行方

本日の目標

これまでは、歴史的に生産システムの推移を取り上げ、前回の講義では、現在の潮流である中国の分散型生産システムを講義した。今回は、講義としては最終回となる。中国の問題点を俯瞰して、私たち日本のこれからの生産システムについて検討する。

講義内容

○ 来週のレポート発表会について/1 前回の復習/2 今回のキーワード/3 前回からの続き/4 現在の日本の生産システム/5 長野県飯田市の試み/6 まとめ/7 参考文献

○ 来週のレポート発表会について

- 来週は、最初からレポート発表会です。

優秀レポートとして発表された方は、本日の授業終了後打ち合わせのため前の方にご集合ください。

- 以前にお越しいただいた石田老舗の石田先生に、見学&ヒアリングをご相談します。

ご希望される方との間で日程調整を行いますので、希望される方は以下の中瀬まで来週の27日までにご連絡ください。

nakase@bus.osaka-cu.ac.jp

○ 試験について

日時：2月3日金曜日 4限

場所：試験会場は複数あります。事前に確認ください。

試験について：試験時間は80分。電子機器類以外は持ち込み可。

※『里山資本主義』について

ネット上の議論について

- 銘建工業は、自社の集成材の原料を北欧より輸入し、その木屑を自社のバイオマス発電に利用したり、ペレット加工して販売。2012年5月、そのペレットの焼却灰からセシウムが検出。(A)
- 上記の銘建工業のバイオマス発電とは別に、2015年4月真庭バイオマス発電株式会社を設立して、そこで使用するチップの7割は真庭市産。(B)

1 前回の復習

中国の分散型生産システムの現実

サムスン電子をものぐ競争力

外資系企業、民営企業ともグローバル化に対応

※活発な大衆資本主義モデル

2 今回のキーワード

反グローバリズム/持続可能な発展/環境経営/地域循環/寛容性

3 前回からの続き

4.4 激化する中国の環境問題

着手の速かった環境汚染への取り組み

そもそも廃棄とは何か

標準化の難しさ

廃棄物処理コストの上昇（テキスト 162 頁）

静脈流産業としての発展⇔自動車，テレビ，パソコンを生産する動脈流産業

※(9)持続可能な発展にとって不可欠

4.5 分散型生産システムの功罪

多様な参加者の参画を可能にしたことによる活発化，一定の経済的な成功

グローバルのもとでの競争激化

非正規従業員の世界的な増大

環境への配慮，資源循環への配慮の低下

⇒地域経済にとってプラスかマイナスか

⇒(10)反グローバリズムのうねり

英国の EU 離脱，米国トランプ大統領の誕生（DVD）

※寛容性を認めつつ，新たな原理のもとでの統合，地域の復権の必要

3 現在の日本の生産システム

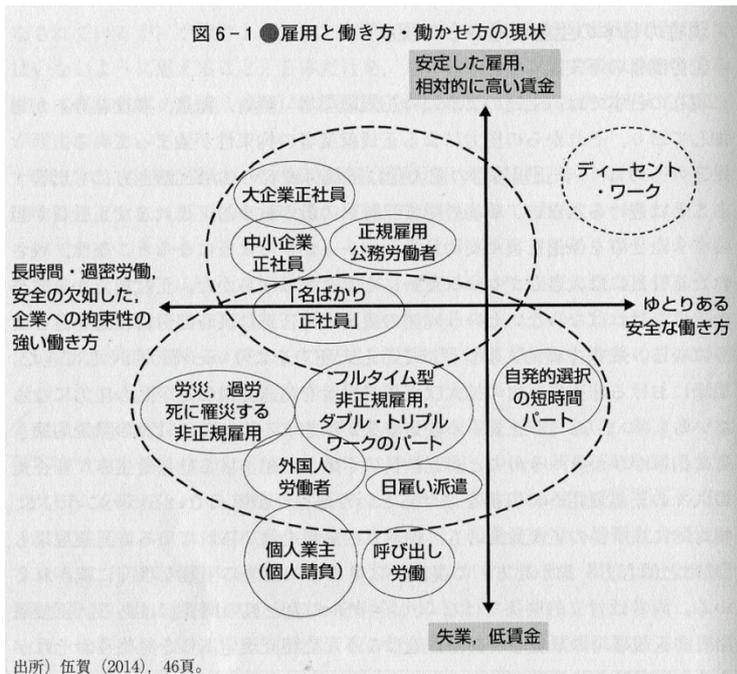
日本でもみられる 3 つの課題+地域の問題

雇用問題

雇用の「細切れ化」，非正規雇用拡大のプレッシャー

→(1)正規雇用の少なさ，精鋭的働き方（テキスト 169 頁，テキスト 170 頁，図 6-1；資料 1）

資料 1



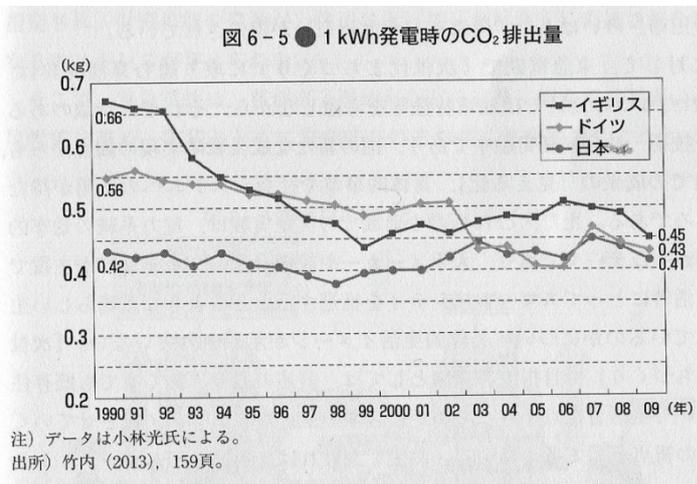
出所) 中瀬 (2016), 170頁。

環境問題

原子力発電所の停止，安価な石炭火力発電所へのシフト

→CO2 排出量の増加（テキスト 177 頁，図 6-5；資料 2）

資料 2



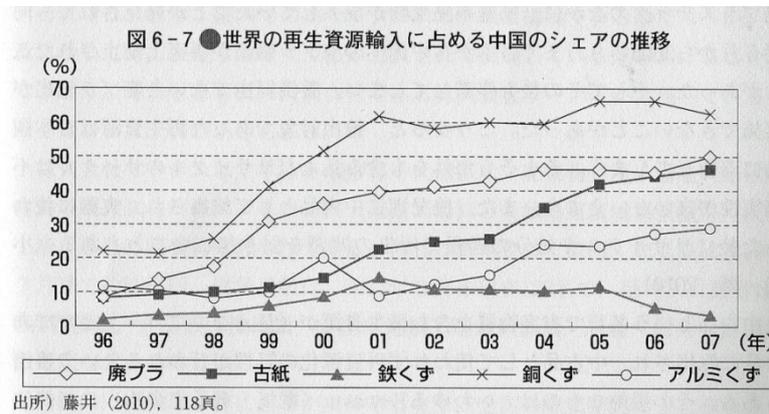
出所) 中瀬 (2016), 177 頁。

リサイクル問題

資源ナショナリズム化への対応, 中国への再生資源の集中 (テキスト 181 頁, 図 6-7; 資料 3)

E-waste の NIMBY 問題 (テキスト 183 頁)

資料 3



出所) 中瀬 (2016), 181 頁。

個々での対応策では不十分, 新たな統合の原理の必要

他方で, (2) 地域の衰退問題

一定の範囲 (地域) における統合原理の模索

垂直統合, 柔軟統合, 分散統合から地域循環統合へ

…長野県飯田市の参考例

日本国内 3 番目のエコタウン, 航空宇宙産業クラスター, 盛んな公民館運動, 太陽光発電導入

4 長野県飯田市の試み

航空宇宙産業クラスターの試み

過去に地域の産業衰退でコミュニティ崩壊の経験で, 生産現場の保持という理念 (テキスト 189 頁)

地域を地盤としたフラットな共同受注の組織化 (テキスト 190 頁, テキスト 189 頁, 図 6-10; 資料 4DVD)

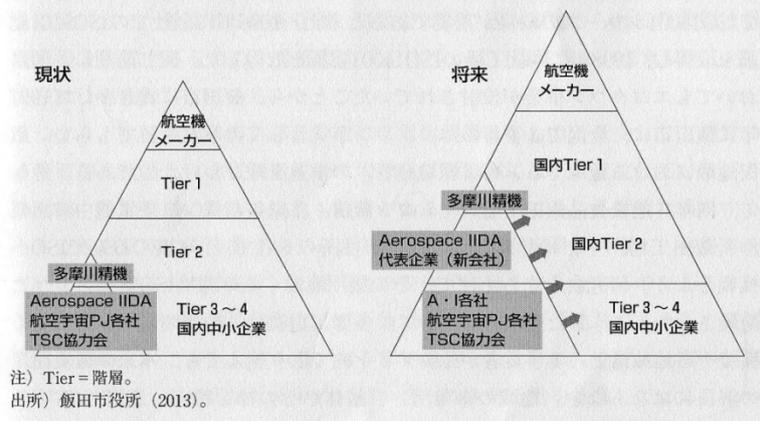
下請関係から脱却の歴史

※飯田市, 中心企業多摩川精機による取りまとめ

⇒(3) 生産現場の獲得, 価値の地域循環で雇用保障

資料 4

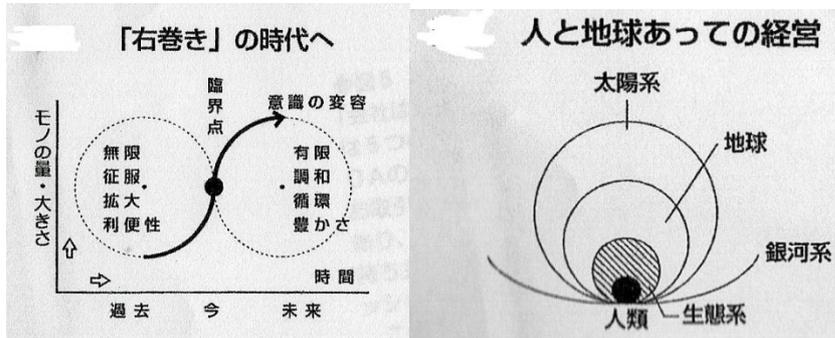
図 6-10 ● 業界における地域内企業の位置づけと将来像



出所) 中瀬 (2016), 189 頁。

地域ぐるみ環境経営の試み

- 自然環境 (日本アルプスなど) を意識しての環境経営への取り組み
- 同じ伊那谷に存在する有力電子部品メーカー KOA の理念の継承
- トヨタ生産システムの実践と「人と地球あつての経営」という理念 (資料 5)
- 資料 5 1990 年代後半以降の KOA の企業理念



出所) 宮下 (2005), 317 頁。

◎(4) 環境経営への取り組み がフラットな企業間関係の結び目

- 「出し抜け」なし, 共創関係の構築と「世界」を相手とするグローバル化
- ⇒ 生産現場の保持による雇用保障と環境経営の両立
- …一つの解

5 まとめ

今回の課題

- 特に中国で発展している分散型生産システムの功罪とは、何でしょうか。
- グローバル化はどのような影響を与えているのでしょうか。
- 日本の生産システムはどのような現状でしょうか。
- 「地域」とは何でしょうか。

※経営史の方法に留意して生産システムの歴史的な流れを踏まえると、今後どのように進んでいくでしょうか。

6 参考文献

- 巖善平 (2016) 「戸籍制度改革と農民工の市民化」加藤弘之・梶谷懐『二重の罫を越えて進む中国型資本主義』ミネルヴァ書房, 21-42 頁
- NHK 取材班 (2016) 『総力取材! トランプ政権と日本』NHK 出版新書
- 宮下武久 (2005) 『おーい, 山へ行こうよ KOA 森林塾十年』伊那毎日新聞社